参考資料３

川部会開催報告

目　次

〇第３回川の地域部会開催報告：12/7 1

〇第１回ＷＧ（家下川モデル１回）開催報告概要：5/18 1

〇第２回ＷＧ（本川モデル１回）開催報告概要：6/23 12

〇第３回ＷＧ（家下川モデル２回）開催報告概要：7/15 27

〇第４回ＷＧ（本川モデル２回）開催報告概要：8/23 35

〇第５回ＷＧ（本川モデル３回）開催報告概要：9/21 45

〇第６回ＷＧ（家下川モデル３回）開催報告概要：10/26 57

〇第７回ＷＧ（本川・家下川モデル４回）開催報告概要：11/2 63

〇家下川リバーキーパーズ（第４回）の活動報告概要：11/18 73

〇第８回ＷＧ（地先モデル１回）開催報告概要：12/14 57

矢作川流域圏懇談会「第３回川の地域部会」開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 24 年 12 月 7 日(金)
15:00 ～ 17:30

○開催場所：
豊田市産業文化センター　大会議室

○参加者：36 名（傍聴者含む）

(2)内容

【会議議事】

１．座長あいさつ
２．出席者自己紹介
３．今年度の川部会活動報告
４．話し合い
(1)全体会議に向けた活動のとりまとめ
(2)来年度以降の川部会運営方針

会議風景（１）

会議風景（２）

2. 主な会議内容

第３回川の地域部会では、これまでの川部会ＷＧの活動報告を行った上で、全体会議（2/18 予定）に向けて、今年度の到達点及び川部会の３ヶ年の活動成果のとりまとめ、来年度以降の川部会の運営方針について意見交換を行った。会議で話し合われた内容は以下のとおりである。

- 全体会議に向けた活動のとりまとめとして、主に以下のように話し合われた。
  - 関係主体からの情報提供により、情報共有が促進されたことを再確認した。
  - 本川モデル、家下川モデルの課題と解決策については、今後、ＷＧの継続とともに随時修正を加えて更新していくものとする。(課題と解決策の順応的管理)
  - 山・海部会と連携できること、したいことについては、振り返りシートに記入、もしくはメールで回答することとし、最終的な意見調整は、地域部会役員調整・市民企画会議合同会議（1/22 予定）で行なうこととする。
- 来年度以降の川部会の運営方針は、主に以下のように話し合われた。
  - 今後の活動内容（案）については、了解された。ただし、課題には、「既存の活動に協力することで解決する課題」と、「ＷＧで関係者がコンタクトすることから解決に導かれる課題」の２種類があり、重視する課題を設定して活動に取り組む必要がある。
  - ＷＧの開催頻度は、今年度と同様に月１回ペースとする。(今後、個別ＷＧの開催頻度を減らし、課題毎に個別の議論ができるようになることが望まれる。)
  - 来年度以降のＷＧでは、現地確認を議論のベースとして、話し合いができるとよい。
  - 支川合流部の段差について、愛知県に県管理区間、豊田市に支川上流部の現地踏査のお願いをした。

3. 議事概要　（・ ご意見、提案　　➢ 回答）

（1）座長あいさつ　大同大学工学部都市環境デザイン学科准教授　鷲見哲也 准教授

（2）出席者自己紹介

（3）今年度の川部会活動報告

事務局より、今年度の川部会の活動報告を行った。その上で、今年度行なった活動について、質疑応答を行なった。その内容は、以下のとおりである。

・ この１年は、基本的にワーキングをベースに、同じものを見てみんな現場に入る、あるいは同じものを見て議論するという形でやってきた。（鷲見）

・ 第７回の本川モデル４回で、具体的にどんなアイデアの共有ができたか、説明いただけるのであればお願いしたい。（硲（さ））

  ➢ 第７回 WG では、本川モデルについてグループワークを行い、出席者各々が意見を出し合った。それをまとめた結果は、参考資料１の 69、70 ページになる。（事務局）

  ➢ 大きな会議体からブレークダウンしたこの河部会 WG でも、やはり円卓会議であったが、グループワークにより小グループで話し合うことで、課題と解決策にどういうことがあるかということを洗い出ししていただく機会になった。（鷲見）

・ まとめた結果は、皆さんが考えたものそのままを載せているので、来年以降にこれを協議していく土台になると考えていいただきたい。（事務局）

・ 現地を見ることによって、参加した皆さんは、いろいろなことを見ているから言いやすいし、わかりやすい。現地を見たことをベースとして議論に参加して、お互い意見交換できるといいと思う。（光岡）

（3）話し合い

1）全体会議に向けた活動のとりまとめ

事務局より、3 ヵ年の活動成果について報告を行い、活動成果について意見交換を行なった。その内容は、以下のとおりである。

・ それぞれのワーキングで、現場でやっている課題整理までを報告いただいた。多くの情報提供を県、市、水の管理者あるいは漁協の方々、電力の方々含めいただいた。そうした情報をもとにワーキングで多くの情報共有をすることができたことをここに深く御礼を申し上げたい。こういう枠組みの中で我々が議論するということで、理解をいただいて情報提供をいただいているということをまず皆さんで認識したく、また、引き続き協力をよろしくお願いしたい。資料－３は３年間の総括である。情報共有、認識の共有からだんだん解決に向かっていくことが、この３年間で徐々に進められてきたことを確認いただきたい。現場で同じものを見て、認識して、場合によってはかなり短い時間で、問題が比較的早く解決される方向に進んでいるケースもあることを紹介させていただきたい。ここまでの３年間、そして今年度のところ、これまでの川部会ワーキングで出された意見を反映したようなものにここまでの整理、解決手法はなっているかどうかという視点を意見交換のポイントとする。（鷲見）

・ 資料－３の６ページ、７ページは、上に「検討中」とあるが、最終的には違う形で提示するということか。それとも、この会議で中身について指摘し、それをまとめて最終案にす

るという意味か。（本守）

- ➢ この表は、この先連続的に、どんどん修正されていくものであり、アダプティブマネジメントと言える。つまり、元々WG にとって何がゴールということはないはずであるが、今後、WG で検討を進めていくと、その先にまた課題が出てきて、この表がさらに長くなっていくこともあるかもしれない。この表は、現時点でまとめられたもので、まだ皆さんの了承を得られた段階のものではないという意味で、検討中と記されている。順応的に修正されていく途中の段階での現段階の表を見せている。（鷲見）

・ 全体会議へはこれは出ていくということか。（本守）
  - ➢ 全体会議に出ていくことになり、先ほどのような説明をすることになる。（鷲見）

・ 検討中ならば、いずれか成案になると考えてしまうが、この表は綿々と続いていくので、それを上手に表現する言葉がないか。（本守）

・ 以上の解釈でよければ、これでいきたいと思う。表の内容について、何か意見があれば、ここで今修正する。（鷲見）

・ 家下川について、水制工や魚礁の設置が、試験設置中になっており、将来は他の場所への展開可能性の検討となっているが、試験結果はどこかで情報として我々はいただいたか。また試験の報告を受けて、他の場所への展開可能性を検討され始めているか。（本守）

・ 本川モデルについて、いろいろな現象があるが、アーマーコート化だけの対策としての土砂供給か。土砂管理検討委員会は、アーマーコート化の対策が目標ではなく、矢作川の河床低下や上流のダム群の土砂堆砂をどうするかなどの問題から、端を発しているのでは。また、以前、懇談会で実験をやってみたらどうかという提案はしたが、それは難しいという話は確かにあった。土砂管理検討委員会の検討中は、いつまで待てばよいのか。（本守）
  - ➢ 土砂供給のあり方は、水系の土砂管理的な意味合いがある。懇談会の現場だけの問題で決まらないということで、土砂管理検討委員会に接続しているという整理である。土砂供給がアーマーコート化に対してだけの対策かという意見であったが、そうであってもこれはこれでよく、土砂管理の観点からは、矢印が右から左となるが、ここでは矢印が左から右にたどる形である。（鷲見）

・ 土砂管理検討委員会は、我々の手に届かないところにあり、どういう状況、スケジュールであるか。（鷲見）
  - ➢ 土砂管理については、今、たたき台ができたところであるが、まだ決定したものではなく、調整に時間がかかっている状況である。土砂管理検討委員会は、今年度まだ開催されていないが、年度内に１回開催予定で、今後の方向性も一定に出ると聞いている。（事務局）

・ 土砂管理検討委員会の中でどういうことが進行しているかという情報が不足している。委員会には、オブザーバー参加可能か。（鷲見）
  - ➢ 資料関係は全てオープンにしているが、現時点で会議は非公開である。（事務局）
  - ➢ 検討の状況を把握するために、懇談会からメンバーを派遣、もしくは、国交省にヒアリングをすることが考えられる。（鷲見）

・ 次に質問のあった水制工、魚礁の設置試験中は、家下川のどの場所の話か。（鷲見）

・ 一番右側の写真は、水制か。（本守）

- 一番右側の写真は魚礁で、写真には水制は載っていないが、この下流側に水制工として石を組んでいる場所がある。家下川モデル１回の現地調査で、皆で回った場所である。（事務局）

・ 設置して、良くない結論が出ればつくらなければいいし、魚がいるなら、どんどん作っていけばいいと思う。この表には、家下川リバーキーパーズが活動している水路のことはしっかり書いてあるが、家下川モデルであるのに、肝心の家下川の改善についての記述がほとんどない。（本守）

- 家下川は、普段、川幅が広すぎるが、魚礁工などにより土砂を留めることができれば、水を寄せて流すような形になり、流路として機能するのではないか。これは最初のころは議論の対象になっていたものである。（鷲見）

・ 検討された解決策の実現可能性は、我々にはわからないところである。（鷲見）

- 家下川モデルについては、河川管理者が積極的に参加願いたいという意見もあったので、今、愛知県で検討している状況である。（事務局）

・ この懇談会では、コンタクトの場になっていることが大事である。すぐ解決する問題とすぐに解決しない問題、予算がつけばすぐ解決できる問題があるかもしれない。その判断を管理者に委ねられてしまうことは仕方がないと思う。まだ、いまだにどういうスタンスで懇談会にかかわったらいいかわからない出席者がおられると思うが、その中でも皆さんにコミュニケーションの綱引きをやっていただきたいと思う。（鷲見）

・ 愛知県河川課では、課題が出ていることは把握しており、検討していると思ってよいか。（事務局）

・ 私自身は把握していないが、豊田加茂建設事務所の高橋氏や建設部河川課の清水氏が出ているときに、そういう話はあったか。（加藤）

- その話をして、愛知県河川課に判断を委ねられたと思っている。各管理者のやれる範囲でやればよいと考えているので、ご協力をお願いしたい。（事務局）
- 了解した。そういう問題があることは認識しましたので。（加藤）

・ 個人の市民の立場に立った時に、愛知県は愛知県として、国交省は国交省として、一体と信じているが、実際は、各団体の中で一体としての認識があるかというと、全然ないことがわかると思う。組織であるから当然のことかもしれないが、そのことも含めて、様々な場でコミュニケーションをとっていただきたいと思っている。（鷲見）

・ 家下川のポイント１の情報不足の課題だけが、他のポイントと視点が違う形での課題が挙げられていると不思議な感じがした。（柴田）

- 課題と解決策の表は、各 WG で成立されており、本川モデルでは、情報不足のカテゴリーが成立しなかった。引き続き、整理のカテゴリーも含めて、この表を見直すことは実施していきたいが、現段階ではワーキングで整理し切る前にタイムアップになってしまった。（鷲見）

・ 資料－３の６ページの右上の「今後の取り組み例」で、既往資料を確認とかアンケート等確認ということで「愛知県」が出ているが、どう理解すればいいか。

- 水位、水量、水質の情報不足で既往資料を確認と書いてあるが、家下川には常時観測しているデータがないことはＷＧで確認している。（鷲見）

- ただ、家下川の整備計画を作ったときの情報が一時的にでもあるかもしれないという話まではいただいて止まっているので、この表に残っている。（事務局）
- アンケートについては、家下川を付近の住民はどうしたいと思っているかということ自体が、まだ吸い上げていない状況である。（光岡）

・ 特に本川モデルの課題と解決策について、表の右側に破線で取り組み例が並んでいるが、アクセントをつけた方がいいと考える。まず、本支川の合流箇所について、管理者が異なるということがあるので、こういう場で話すと非常に成果が大きい。瀬・淵・ワンドの維持再生は、白浜工区で国交省が検討しているので、この場で話すのにちょうどいい。砂利投入に関して、生息場所の変化に影響するので、非常に難しい課題だと思うが、かなり重要な課題だと思う。以上のように、WG の場で話し合うことが重要だというものを、アクセントをつけて全体会議に持っていった方がいいのでは。（内田）

- 皆が顔を合わせるのは、これが最後になるので、その議論をこの場でやる時間がないと思うが。（事務局）
- 私の提案としては、流域土砂管理委員会の検討成果を踏まえた提案の実施、瀬・淵・ワンド、本支川合流部である。（内田）
- 資料－３の６～７ページは、現状と課題解決策のこれまで話し合ってきた議論を載せているが、資料－３の３～１０ページに今後取り組んでいく主な活動内容を取り上げている。（事務局）
- 今後取り組んでいく主な活動内容の話をしてから考えよう。（鷲見）

2）来年度以降の川部会運営方針

３ヶ年間の成果を踏まえて、来年度以降の川部会の活動内容について、家下川モデルは鷲見座長より、本川モデルは内田副座長より提案を行った。

・ 本川モデルの課題において、「①外来種対策」、「②在来種の減少」の課題と「③本支川の合流箇所」、「④河床のアーマーコート化」、「⑤良い瀬淵・ワンド」の課題は、課題の性質が異なる。懇談会で議論することが効果的と考える後者に対応する問題を、懇談会で重視して考えてはどうか。（内田）

- 懇談会での取り組みには、すでに行われているアクションに対して協力したり情報共有したりするものと、この場でコンタクトがあって初めて解決につながるかもしれないものがあり、後者は、様々な境界の問題であり、懇談会では確かに重視されるべきである。（鷲見）

・ 資料－３の６～７ページの表は、アクションそのものが記述され、懇談会でコンタクトされている内容については落とし込まれていない。懇談会の場でコンタクトがあって解決につながることも、実は懇談会の成果であるが、その実績を蓄積できていない。（鷲見）

・ ３年目のスタイルを基本とし、成立されてきたフレームを土台にしながら検討していくということでよろしいか。（鷲見）

- 了解した。（全員）

事務局より、来年度以降の川部会の進め方について報告を行い、川部会の活動内容と進め方について意見交換を行なった。その内容は、以下のとおりである。

- 会議体について、開催頻度やワーキングのスタイルをどう考えるか。（鷲見）
  - 現地をベースにして討論できる機会を今後重ねていたい。（光岡）
- ある程度目的があって、それを達成するために最適な会議体は何かという議論したほうがいいのではないか。（柴田）
  - 私の認識では、この会議体はコンタクトの場になっている。資料－３の６～７ページの表は最終的にはこの会議の成果ではなく、各管理者が手を打って最終的に管理に至ることがほとんどだと思う。その途中段階で、情報を共有して、コンタクトして、具体的にそうなったほうがいいという議論まではできる。課題が最初から固定されていないのがこの懇談会の最初にある。課題の認識と、解決策に接続するところまでが懇談会でのポジションになると思う。（鷲見）
- 私たちはピンポイントで見ているものであるから、全てをきちんと描いたモデル的な立派な絵があるわけではない。（光岡）
  - できればそのピンポイントのものを線につなげる、面につなげるまでをこの懇談会としてやりたいと思っている。（鷲見）
- モデル区間をとことん９年間、３サイクル続けて追求していく場にするか、他の川や他の区間で、情報共有してコンタクトを図ることによって流域圏全体の姿を進めていくという役割もある。コンタクトを図るだけでは非常につまらないと私は思う。（本守）
  - それは皆さんで決めることである。行政としては、法的な枠組みで強制権はないことは確認した。（鷲見）
- せっかく懇談会で検討したことを実証するということで、例えば、いわゆる市民の川として使えるようにという提案の仕方はあり得るか。（松井）
  - ここでは何が必要なのかということを整理して、それに基づいてアクションを起こしていただけますかということをやれるということである。それについて、ネガティブに考える必要は全くないと考えている。（鷲見）
- この会議体のスケジュール、密度は、どの程度必要かがすごく心配であるが、皆さんはどうか。残念ながら、今は会議体が中心になっているが、できれば個別の議論は、会議体にこだわらずに、例えば、瀬・淵がどうなっているかというような活動が、現場でたくさん発生していることを私は望みたい。（鷲見）
- 白浜工区では、市民が参加して将来の絵を描き、高校生を巻き込んで、第２の豊田の水辺をつくろうという活動が、ものすごい勢いで進んでいる。（事務局）
  - 河畔の都市林として取り組んでいる。基本的な考えは、鷲見先生に教えていただいた順応的管理の考えに沿ってやっている。（硲（伸））
  - 我々が予測しないようなことが起こっていくことにアダプティに対応していくことも含めて、勉強する必要があると感じた。（鷲見）
- 山、海と連携するトピックについて本当は議論したかったが、時間がない。振り返りシートで意見があったら書いていただきたい。（鷲見）
- 連携については全体会議で一定の方向を出す必要があり、その調整はどうするか。（事務局）

- ➢ 座長・副座長会議と市民企画会議合同の会議があり、そこで確認できる。それまでに山・海との連携に関する意見をいただきたい。

・ 資料－３は、段差解消について、私と小林氏の２人で１日現場を回ってまとめたものである。この資料を参考に、愛知県には、県管理の篭川合流点から越戸ダムまでの区間の調査をお願いできればと思う。また、豊田市には、合流している支川の上流に魚を上らせるべきかについて、形状から見て検討いただけると、現場に行ったときに議論がしやすいと思う。（事務局）

- ➢ スタートアップの情報の土台に相当するところとして、調査をやっていただいたという話であった。（鷲見）

・ 以上で、今年度の川の地域部会を終わりたい。長時間ありがとうございました。

以上

矢作川流域圏懇談会「第１回川部会 WG（家下川モデル）」開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 24 年 5 月 18 日(金)
13:00 ～ 17:00

○開催場所：

【集合場所・WG会場】
豊田市生涯学習センター末野原交流館

【訪問箇所】
家下川流域
・家下川下流部（家下川からの洪水時越流と下流側樋管の関係）
・柳川瀬公園と承水溝
・水路マス設置箇所
・土砂、植生設置箇所
・水田魚道設置箇所
・上流区間（県管理区間）

○参加者：24 名（事務局含む）

(2)内容

【プログラム】

１．本日の進め方及び今後の会議運営について

２．現地調査
・柳川瀬公園と承水溝
・水路マス設置箇所
・土砂、植生設置箇所
・水田魚道設置箇所
・上流区間（県管理区間）

３．質疑応答と意見交換
・家下川における活動内容や課題について
・活動団体の今後の活動予定と WG の活動内容について

現地調査風景

会議風景

2. 主な会議内容

第１回川部会WG（家下川モデル）では、現地調査と意見交換の中で、家下川における活動団体や管理者が抱える課題や活動内容について、情報共有し、課題の洗出しを行なった。WGで話し合われた内容は以下のとおりである。

- ○ 現地調査箇所では、活動内容や課題について意見交換がなされ、情報共有が進んだ。
- ○ 一方で、課題解決に向けての現状把握を進める必要があることが認識された。
- ○ 次回までに、視察した現場の課題と解決策について、またその背景についての情報提供、質問等を提出することとした。
- ○ 次回、管理者である愛知県から、家下川の計画や将来像等について伺うこととした。
- ○ 次回WGは、本川モデルの第１回WGであり、6 月 23 日 13：00～17：00 とし、家下川モデルと同様、現地調査と意見交換を実施する。また、第 2 回WG（家下川モデル）は、7 月 15 日とする。いずれも、会場等、具体の場所は後日調整する。

矢作川流域圏懇談会「第２回川部会 WG（本川モデル１回）」開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 24 年６月 23 日(金)
13:00 ～ 17:00

○開催場所：

【集合場所・WG会場】
豊田市生涯学習センター美里交流館

【訪問箇所】
矢作川本川流域
・河道掘削箇所（白浜工区・野見工区）

○参加者：33 名（事務局含む）

(2)内容

【プログラム】

１．本日の進め方について
２．現地調査
３．質疑応答と意見交換
・現地調査に対する質疑応答
・本川における今後の活動内容や課題対応について
・次回以降の日程について

現地調査風景

会議風景

2. 主な会議内容

第２回川部会WG（本川モデル１回）では、現地調査と意見交換の中で、本川における活動団体や管理者が抱える課題や活動内容について、情報共有し、課題の洗出しを行なった。WGで話し合われた内容は以下のとおりである。

- ○ 現地調査では、河道掘削事業の概要、河岸・河畔のあり方における官民連携の取り組み状況等について説明があり、情報共有が進んだ。
- ○ 意見交換では、主に河道掘削箇所の今後の取組み、オオカナダモ等の外来生物について、その現状と課題解決策について話し合われた。
- ○ アユの生息等について、土砂動態（河床地形・材料等）について情報交換がなされた。動態やノウハウの客観的な情報共有がまだ十分と言えず継続課題である。
- ○ 今後WGを進めていく上で、矢作川の環境の目標をどこに持っていくかを共通の課題とし、目標に対しての差の原因は何かということを考えていくこととした。
- ○ 次回以降のWGは、家下川モデルWG２回が 7 月 15 日 13：00～17：00 であることを再確認し、本川モデルWG２回を 8 月 23 日 13：00～17：00 で開催することとし、会場等、具体の場所は後日調整する。

矢作川流域圏懇談会「第３回川部会 WG（家下川モデル２回）」開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 24 年 7 月 15 日(日)
13:00 ～ 17:00

○開催場所：
【集合場所・WG会場】
豊田市民活動センター　会議室

○参加者：23 名（事務局含む）

会議風景

(2)内容

【プログラム】

1．開会・あいさつ

2．前回の振り返りと本日の進め方について

3．情報提供と質疑応答

・家下川の整備状況と将来計画（愛知県河川課）

・承水溝、柳川瀬公園周辺の整備状況（豊田市）

・豊田土地改良区の利水について

・家下川リバーキーパーズの活動報告（矢作川水族館）

4．意見交換

・家下川の現状と課題について

・WG の今後の活動内容について

・第 1 回全体会議について

2. 主な会議内容

第 3 回川部会WG（家下川モデル 2 回）では、管理者等からの情報提供と質疑応答を行なった後、意見交換を行なった。意見交換の中で、家下川モデル 1 回に引き続き、本川における活動団体や管理者が抱える課題や活動内容について、課題の洗出しを行なった。WGで話し合われた主な内容は以下のとおりである。

- ○ 管理者等からの情報提供で前回明らかでなかった家下川周辺の計画等について情報共有がなされ、家下川の現状と課題について意見交換がなされた。
- ○ 前回と同様、課題解決に向けての現状把握（家下川や水路の流量、地下水の状況等）を進める必要があることが認識された。
- ○ 家下川と承水溝、ひょうたん池等の水位や洪水時の管理方法等について、管理者間で確認し、次回に情報提供することとした。
- ○ 各モデル WG の進捗を考慮して､第 3 回川の地域部会の開催月を 10 月から 12 月に変更する。
- ○ 次回WGは、本川モデル 2 回WGであり、8 月 23 日 13：00～17：00 とし、家下川モデルと同様、現状と課題について意見交換を継続する。また、その後の WG の予定として、本川モデル 3 回WGを 9 月 21 日、家下川モデル 3 回を 10 月 26 日に実施する。いずれも、時間は 13：00～17：00 とし、会場等、具体の場所は後日調整する。

矢作川流域圏懇談会「第４回川部会 WG（本川モデル２回）」開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 24 年 8 月 23 日（木）
13:00 ～ 17:00

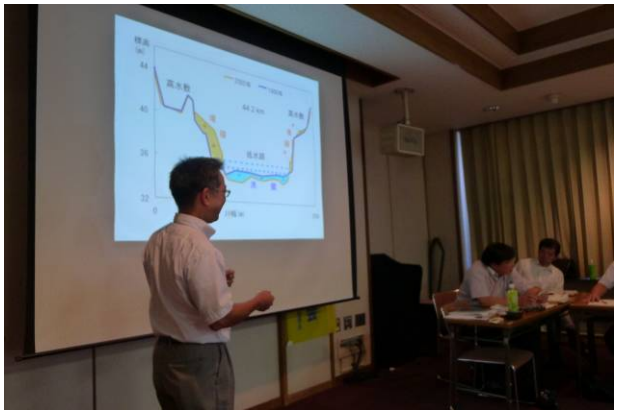
○開催場所：
【集合場所・WG会場】
豊田市生涯学習センター末野原交流館

○参加者：42 名（事務局含む）

(2)内容

【プログラム】

1．開会・あいさつ
2．前回の振り返りと本日の進め方について
3．情報提供と質疑応答
・アユの生態について（矢作川研究所）
・土砂とアユの生息環境、漁協の取り組みについて（矢作川漁業協同組合）
・矢作川における生物生息環境について（内田副座長）
4．意見交換



情報提供風景

意見交換風景

2. 主な会議内容

第 4 回川部会WG（本川モデル 2 回）では、情報提供と意見交換の中で、本川における現状と課題、活動内容について情報共有を行なった。WGで話し合われた内容は以下のとおりである。

- ○ 矢作川本川のアユの生態や土砂と生物生息環境の関係について情報提供をいただき、意見交換では、その現状と課題解決策について話し合われ、情報共有が進んだ。
- ○ アユの生息環境（アユの産卵環境、産卵場所など）や土砂動態（河川横断構造物における土砂堆積量、通過量など）について、客観的情報が十分と言えず継続課題である。
- ○ 次回WGでは、話題提供として、本支川の段差の問題と外来種の問題とする。また、参加者間の情報共有を進めるため、河床の状況等について現地調査を実施する。
- ○ 次回WG日程は、9 月 21 日午前 10：00～とし、午前の部は現地調査、午後の部は情報提供・意見交換を行なう。当日の水位が高い場合には、現地調査を中止し、午後の部（13：00～）のみの開催とする。

矢作川流域圏懇談会「第５回川部会 WG（本川モデル３回）」開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 24 年 9 月 21 日（金）
10:00 ～ 17:00

○開催場所：

【集合場所・会議場所】

豊田市・生涯学習センター美里交流館

【現地調査場所】

矢作川本川

○参加者：32 名（事務局含む）

現地調査風景

意見交換風景

(2)内容

【午前プログラム】

1．開会・あいさつ

2．現地調査

(1)古鼡水辺公園下流部(アーマコート化)

(2)高橋上流右岸(瀬と淵、ワンド)

【午後プログラム】

3．これまでの振り返りと本日の進め方について

4．情報提供と質疑応答

(1) 土砂関係について（国土交通省）

(2) 利水状況について（国土交通省）

(3) 水産資源の持続的再生について
（矢作川漁協）

(4) 豊田市矢作川環境整備計画について
（豊田市河川課）

(5) 支川（安永川）合流部の段差について
（豊田市河川課）

(6) 矢作川における外来種と既存種の生息状況について（矢作川研究所）

5．意見交換

(1) 今後の取組み課題について

(2) 次回以降の WG の活動内容について

2. 主な会議内容

第 5 回川部会WG（本川モデル 3 回）では、情報提供と意見交換の中で、本川における現状と課題、活動内容について情報共有を行なった。WGで話し合われた内容は以下のとおりである。

- ○ 現地調査で河床（アーマーコート化、外来種の生息）の状況や瀬淵の状況を確認し、これまでの議論の情報共有が進んだ。
- ○ これまでの疑問に対応する情報提供等を元に、その現状と課題解決策について意見交換を行い、情報共有が進んだ。次回には、課題間の関係が分かる形に整理することとした。
- ○ 今後も情報共有を進める必要があり、矢作川研究所のデータを確認し、必要であれば、WG において河床の状況や生き物について対象区間を調査することとした。
- ○ 次回以降のWG日程は、矢下川モデル 3 回を 10 月 26 日 13：00～、本川・矢下川モデル 4 回を 11 月 2 日 13：00～とし、12 月 7 日川地域部会に向けた総括をする。地先の課題モデルの現地バスツアーは、12 月 14 日の１日で実施する。

矢作川流域圏懇談会「第６回川部会 WG（家下川モデル３回）」開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 24 年 10 月 26 日(金)
13:00　～　17:00

○開催場所：
【集合場所・WG会場】
豊田市生涯学習センター末野原交流館
会議室

○参加者：19 名（事務局含む）

(2)内容

【プログラム】

１．開会・あいさつ
２．前回までの振り返りと本日の進め方について
３．情報提供と質疑応答
・家下川、承水溝、柳川瀬公園周辺の地下水位について（豊田市）
・家下川、承水溝、柳川瀬公園周辺の洪水時の管理について（国交省、愛知県、豊田市）
・家下川における活動の近況（矢作川水族館）
４．意見交換
・家下川の現状と課題について
・家下川モデルの取りまとめについて
・WG の今後の活動について

情報提供の様子

グループワークの様子

2. 主な会議内容

第６回川部会 WG（家下川モデル３回）では、情報提供とグループワークにより、家下川の課題と解決策（アイディア）について、意見交換、情報共有を行なった。WGで話し合われた内容は以下のとおりである。

- ○ 管理者、活動団体からの情報提供で、前回情報不足であった家下川周辺の地下水位、洪水時の管理等について情報共有がなされた。
- ○ また、グループワークでは、２グループに分かれて、家下川の課題と解決策について意見交換を行ない、様々なアイディアの共有がなされた。
- ○ 家下川の流量の情報については、国交省と愛知県で確認することとする。
- ○ 今後、家下川モデルについては、愛知県の管理者としての積極的な参画が望まれる。
- ○ 次回は、本川モデル、家下川モデルの意見交換を行い、次年度以降の議論の土台（枠組み）を作ることとする。

Aグループの課題と解決策（アイデア）の整理

ポイント1：情報不足

【生息生物について】
- どんな魚がいるの？
- どんな魚がほしいのか？
  →だいたいカバー
- 本川（カワムツいない）
- 魚の棲みやすい川づくりの指標をなににするのか？
  ・魚・・・なに
  ・虫・・・水中の虫の数？
  ・水の量、質？
  市史など

【水について】
- 水質の推移、現状
- 水位、流量
- 下水（今流入しても整備で減るかも）

【住民の要望について】
- 家下川周辺住民の川に求めるもの（水路）
- 周辺住民へのアンケート
- 情報不足
- 住民が家下川に何を求めているのか

ポイント2：生き物の移動阻害

【矢作川と家下川の段差について】
- 矢作川と家下川の高低差
- 矢作川と家下川の高低差を表面水を確保しながら段差を小さくする構造とする

【管理境界の段差について】
- 各管理者ごとの移動阻害となる、段差などの位置。

【水田魚道について】
- 水田魚道
- 水路の水位を上げる

【承水溝について】
- 水位高低差をゲートのコントロールだけで可能か、床面の掘削も必要かどうか。

ポイント3：生き物の棲みかの不足

【魚のすみかについて】
- 魚の種類
- 春、夏、秋、冬
- 産卵場所

【水路マスについて】
- 水路マス設置箇所
- 必要量がどれだけか？
- 設置した状況を調査し適宜必要量を増加させる。

【その他について】
- 棲みかをスポットでしか整備できない現状で、全体案への影響の有無。
- モニタリング

【水田魚道の設置について】
- 水田魚道の設置や土砂植生設置促進の足かせとなることは？

ポイント4：水量不足

【水量について】
- 灌漑期と非灌漑期の排水路水路の違い・・・
- 用水取水位置と排水路網図（非灌漑期に一定排水路へ水を集中出来るか）
- 絞り込み

ポイント5：その他の視点

【親水性について】
- 矢作川における親水性という観点は？
- 子どもの遊び場（矢作川本川）
- 子どもの安全確保をどうするか？

【モデル地区のあり方について】
- 支川と本川と同じ考えでよいのか？
- 矢作川の各支川につかえるか？
- モデル地区としてのあり方
- 他の場所で参考になるのか？
- この考え方が、数年後も続けていくことが出来るのであろうか？
- 教育→状況を続けることを教える。（持続性）

Ａグループのワークの状況

Ａグループのワークの成果

Bグループの課題と解決策（アイデア）の整理

ポイント1：情報不足

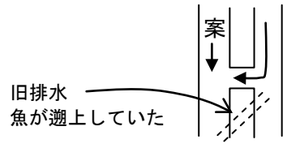
【　について】
- 施設改築の可能性の程度

【　について】
- 管理者区分
- 施設に関する窓口

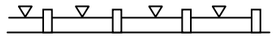
ポイント2：生き物の移動阻害

【矢作川本川－家下川の段差について】
- 本川支川の矢板の処理①②案の提案について
- 他の方法はないか
- 本川、支川の矢板の処理について
  →矢板を全部抜いたらどうか
- 本川から魚が遡上出来ない。
- 家下川の段差（下流端）の魚の移動阻害改善の方法生は？

【家下川−承水溝−ひょうたん池の段差について】
- ひょうたん池と承水溝の間の水門はつかわれていない。段差をとってしまったらどうか。
- 家下川と承水溝の水門は急角度すぎる。昔ように斜めにできないか。



【中大排水路について】
- 中大排水路の冬期に一定区間毎に柵板を設置して、魚等の生息場と鳥のエサ場の改善。



- 中大排水路等にメダカなどの生息環境を作り、「メダカが生きる田で取れた米」ブランドを作って、農業者として販売し、その数%を環境へ
- 水田魚道を多く作り田んぼを魚の産卵場として使う。

ポイント3：生き物の棲みかの不足

【河床材について】
- 砂、砂利を敷くときの流失しにくい配置があるのではないか？
- 鷲見先生に計算してもらえるかもしれない？
- 底は少し大き目の砂なら動かない!!計算しよう。

$$\frac{hi}{Sd60} \leqq 0.05$$

【用水路の河床について】
- 用水路の底は何故コンクリートをはるのか？
- 農民に理解してもらう（水路の草など）
- 西大排水路の河床を魚類等の種から、何m程度にめくるかなどを検討したらどうか。

【承水溝の河床について】
- 承水溝の浚渫を行い、冬越しの場所をつくる。大水時。
- ポンプの力を使って掘れるよう、水制があってもよいかも。
- 承水溝の池干しをして、魚をつかまえ、底がコンクリートか確かめる。

【家下川の川の多様性について】
- 家下川の川中の変化、川幅が広すぎないか。草は多いか。
- 家下川全川において河川環境のあるべきすがたを絵にしたらどうか。中間の市民整備を基本に。
- 瀬を作る
- 家下川に変化をつける
- 家下川の上流の河床を低下させる。

ポイント4：水量不足

【水量不足について】
- ひょうたん池の水不足
- 宗定川の水量不足
- 冬場の農業用水に水がない。
- 冬は排水路に水ない（流れる必要？有）本案
- 柳川瀬公園ひょうたん池の水源として、運動場のトイレ手洗水の導水や、宗定川の水を水車や小水力発電を伴う水揚げにより、ひょうたん池へ導水は？
- 冬にたんぼと排水路に水をためる。

【地下水について】
- 家下川の地下水位の情報
  →地下水等の正確の最新データの把握
- 豊田市史のための地下水調査のデータはどうなった？
- 家下川の地下水位の情報
  →現地での実測（穴を掘って地下水の確認）数地点

【矢作川本川の水位について】
- 矢作川本川の水位低下を抑えるために中州などの樹木を切って、上昇を抑えたらどうか？

ポイント5：その他の視点

【市民参加について】
- 矢作川本川の小規模の流れをつくり、川全体が市民に理解される事が必要では？

【愛知県の役割について】
- 家下川については、県が事務局を担当する。

【景観について】
- 田園風景としての水路景観が欲しい。
- 家下川は、魚だけでなく景観も考えなくてはならない。

【川の多様性について】
- 草がはえすぎ。
- 深みが少ない。

【市民参加について】
- これから作る予定の「越冬マス設置」で、子供の低学年児、幼稚園児が、中に入れる安全を考えたマスを作るのは？
- 親子で参加する事を前提にして観察会を行う。子育て中の親の参加。
- 西大排水路は安全
- 有効的に環境教育に利活用

Ｂグループのワークの状況

Ｂグループのワークの成果

矢作川流域圏懇談会「第７回川部会 WG（本川・家下川モデル４回）」開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：11 月 2 日（金）13:00～17:00

○開催場所：豊田市生涯学習センター末野原交流館

○参加者：19 名（事務局含む）

(2)内容

１．開会・あいさつ

２．これまでの振り返りと本日の進め方について

３．本川モデルについて

(1) 矢作川本川と籠川の魚種の変遷について
（矢作川研究所より情報提供）

(2) 矢作川本川の課題と解決策について
（グループ討議）

(3) 今後の取組みの方向性について

４．家下川モデルについて

(1) 家下川の課題と解決策について

(2) 今後の取組みの方向性について

５．次回以降のＷＧについて

６．閉会

グループワーク（本川モデル）の様子

全体討議（家下川モデル）の様子

2. 主な会議内容

第７回川部会ＷＧ（本川・家下川モデル４回）では、情報提供とグループワークにより、矢作川本川の課題と解決策（アイディア）について意見交換を行ない、本川モデル・家下川モデルの検討していく課題を設定し、ＷＧとしての今後の活動展開について話し合った。ＷＧで話し合われた内容は以下のとおりである。

- ○ 本川モデルでは、前回情報不足の**矢作川本川の魚種の変遷について情報共有**がなされた。
- ○ グループワークでは、２グループに分かれて、矢作川本川の課題と解決策について意見交換を行ない、**様々なアイディアの共有**がなされた。
- ○ 「アユ以外の魚も含めて、広く生き物の移動しやすい川を目指す」こととし、検討していく課題を設定した。
- ○ 家下川モデルの今後の取り組みは、「情報不足」と「生き物の棲みかの不足」の課題を主に扱い、「生き物の移動阻害」については、提案までを行うこととする。
- ○ 家下川での実践を、如何に外部に発信（展開）できるかも考えていく必要がある。
- ○ 家下川リバーキーパーズの活動告知（11 月 18 日）があった。

Aグループの課題と解決策について（案）

	具体的課題	検討中・実施中の取り組み[主な活動団体]	WG における今後の取組み例
直接的な課題（生物）	1. 外来種対策		
	オオカナダモの繁茂	○ エアー等による駆除[矢作川森林塾] ●オオカナダモの生態の解明。根の深さの条件の解明。	① 外来種の生息状況について情報共有する。（⇒3回WG） **② 場所を定めて、外来種の生息状況をモニタリングしてみる。** **③ オオカナダモの駆除活動に参加してみる。** **→オオカナダモの活用方法を考える。（食用、燃料など）** **④ 掻い掘り活動に参加してみる。**
	カワシオグサの繁茂 ●カワシオグサはもうないのでは？	○ 砂利投入	
	カワヒバリガイ	○ 除去（剥ぎ落とし）[中部電力]	
	アメリカナマズの増殖	○ 掻い掘りによる実態把握・駆除 [漁協、矢作川水族館、中部電力] ●ブルーギル、ブラックバスなどの駆除は不可能！？ ●外来種の魚の数を入れて評価してよいのか？ ●捕獲手段の研究。生態の研究。 ●外来種対策として賞金をかける。量、数で対応する。	
	2. 在来種の減少		
	氾濫原に生息する魚種（フナ、メダカ、タナゴ等）の減少		① 在来種の生息状況について情報共有する。（⇒4回WG）
	3. 遡上アユ対策魚の移動阻害		
	本支川間の移動阻害	○ 魚道設置（籠川等）[河川管理者] ●魚道に鳥は来るか。（サギ、ウなど）	① 本支川における魚道の設置計画等について情報共有する。（⇒3回WG） **② 魚道設置効果を確認し、魚道を設置する際の配慮事項について検討する。** ●3. 「魚の移動阻害」を第一義とする。 ※アユは一魚種であり、クローズアップしすぎ。 ●どんな魚や生物がいるとここではよい川、いい川か？ ●本・支川を含めてまとめて魚道のカルテを作る。 ●3. 移動阻害について支川をリストアップし、魚道の有無を含めて○×判定を実施していく。（今回はモデル区間で） ●本支川・農業水路・水田の間のギャップの変化の整理。
	矢作川本川における移動阻害	○ 施設改善（魚道設置）[利水者、河川管理者]	
		○ 遡上アユの汲み上げ放流 ○ 産卵アユの汲み下げ放流[漁協]	① アユの実態や保全活動について、情報共有する。（⇒2・3回WG） ② アーマーコート化した河床と土砂供給のある河床を現地確認してみる。（⇒3回WG） ⇒生物生息状況も合わせて確認し、その関係を確認 **③ アユ成長調査（夏季）、流下仔アユ調査（秋季）、産卵アユの汲み下げ放流（秋季）等に参加してみる。** **⇒天然アユや保全活動の実態を情報共有** **④ 天然アユ保全活動への継続的に参加し、天然アユの保全方法を検討する。**
間接的な課題（生息環境）	4. 河床のアーマーコート化		
	アユの採餌・産卵環境の悪化	○ アユ成長調査、流下仔アユ調査 [漁協、矢作川研究所、天然アユ調査会等] ○ 産卵場の造成 ○ 砂利投入[漁協、河川管理者等] ●河床材料の粒度分布。 ●砂利投入はどのようにするのか。どこへ、いつ、どれだけ（目途を付ける必要有り）。 ●河床のやわらかさを数値指標にする。 ●アユの変化の情報整理。	
	土砂供給のあり方、対策の検討	（○ 流域土砂管理検討の中で検討中）	① 勉強会等により、土砂管理について情報共有する。（⇒第7回、第8回勉強会で実施） **② 継続的な情報共有・意見交換を行なう。** ●越戸ダムの流下する土砂の大きさと量を知る。
	5. 瀬淵・ワンドの消失（河床の平坦化）		
	川中の微地形の多様性 ●早瀬はあるのか！平瀬？ →河床耕運が必要。 ●渕の存在を、現在と昔を調べる。	●瀬～淵～瀬の連続性が減少している。 ●鵜ノ首より上流は潜水方式ですか、川ですか。 ●土砂が特定箇所に堆積して移動しない（河床の平坦化）。 ●外来種の増加（魚種・個体数）をめざして。そのための造成をする場所を設定する。 ●適切な低水路の川幅の研究。（氾濫原、ワンドやたまりの形成・維持） ●流量。出水規模、回数、最小流量の減。 ●施設操作。 ●出水の大きさと川底の変化の関係を知る。	① 瀬淵の状況について情報共有する。（⇒2・3回WG） **② 瀬淵の状況をモニタリングし、対応策を検討する。** ●河川の氾濫原の保全造成。堤内地の高い所の高水敷の切り下げ。 ●氾濫原を作り出す河川改修が必要。河道掘削か中水路など自然が作る後押し。 ●土砂の移動。堆積。バーブ工！ ●又は堤内地の北に低いところの堤外遊水地（ao ライン川） ●連続的に横断を調べる。200m 横断では瀬淵が把握できない。
	試験施工後の順応的管理 （白浜工区・野見工区） ●高水敷の樹林の増加が水生生物に与える影響は？ ●魚の棲みやすい川づくりでは水の中のことであるが、鳥・樹林の話は考えないでよいのか。 ●地域の関与（魚の棲みやすさに向けて）。	○ 河床掘削後の浅瀬形成、ワンド造成、砂州の再生[ワーキンググループ]	① これまでの取組み状況（工事概要、地元住民との連携状況）を確認する（⇒1回WG） **② 継続的な情報共有・意見交換を行なう。** **③ モニタリング（効果の確認）を実施する。**

Bグループの課題と解決策について（案）

	具体的課題	検討中・実施中の取り組み[主な活動団体]	WG における今後の取組み例
直接的な課題（生物）	1. 外来種対策		
	オオカナダモの繁茂	○ エアー等による駆除[矢作川森林塾]	① 外来種の生息状況について情報共有する。（⇒3回WG） **② 場所を定めて、外来種の生息状況をモニタリングしてみる。** **③ オオカナダモの駆除活動に参加してみる。** **→オオカナダモの活用方法を考える。（食用、燃料など）** **④ 掻い掘り活動に参加してみる。**
	カワシオグサの繁茂	○ 砂利投入	●オオカナダモは、毎年駆除する事は重要であるが、上下流を見た完全駆除手法を調査を含めて、検討する必要があるのではないか。 ●矢作ダムの洪水カットを極力大きな洪水にする事により、河床の流速も大きくなり、オオカナダモも流される事となる。 ●オオカナダモが本川を流下して広がっているほか、支川（取水）をスルーして本川を通らず広がっていることは悪いのか。 →支川でもカナダモらしき生物がある。
	カワヒバリガイ	○ 除去（剥ぎ落とし）[中部電力]	
	アメリカナマズの増殖	○ 掻い掘りによる実態把握・駆除 [漁協、矢作川水族館、中部電力]	●ダム管理者による定期的な駆除。（手法：サシアミ、ハエナワ、定置アミ等。） ●調査活動・駆除活動の充実。（人員、資金を確保する。） ●再放流（キャッチアンドリリース）禁止など。思い切った対策。
	2. 在来種の減少		
	氾濫原に生息する魚種（フナ、メダカ、タナゴ等）の減少		① 在来種の生息状況について情報共有する。（⇒4回WG） ●河川（本川・支川）に関する改修工事の情報を本年度・次年度を収集し、生態系に対して事前に対策・対応が出来るような連絡網的な体制が必要ではないか。 ●土地改良の方針転換（コンクリートはがし等）。用水路の環境改善。 ●ワンドの増設。支流との合流点の形状の見直し（工事の時のひと手間でかわる）。
	3. 遡上アユ対策魚の移動阻害		
	本支川間の移動阻害	○ 魚道設置（籠川等）[河川管理者] ●籠川について本川の河床低下と支川の河床低下の量と年代を把握する必要がある。	① 本支川における魚道の設置計画等について情報共有する。（⇒3回WG） **② 魚道設置効果を確認し、魚道を設置する際の配慮事項について検討する。** ●アユ以外のダムによる移動阻害。 ●魚道の見直し。流れのゆるい迂回路。 ●支川合流段差の解消と堤内地の支川、用水路の魚の移動改善を行う事で魚の多様化につながる。 ●河川工事の中で工事完成後の河川の復元の方法（どの様な形に戻す）について生態系にプラスになるような方策の意見を頂き実施しては。
	矢作川本川における移動阻害	○ 施設改善（魚道設置）[利水者、河川管理者]	
		○ 遡上アユの汲み上げ放流 ○ 産卵アユの汲み下げ放流[漁協]	① アユの実態や保全活動について、情報共有する。（⇒2・3回WG） ② アーマーコート化した河床と土砂供給のある河床を現地確認してみる。（⇒3回WG） ⇒生物生息状況も合わせて確認し、その関係を確認 **③ アユ成長調査（夏季）、流下仔アユ調査（秋季）、産卵アユの汲み下げ放流（秋季）等に参加してみる。** **⇒天然アユや保全活動の実態を情報共有** **④ 天然アユ保全活動への継続的に参加し、天然アユの保全方法を検討する。**
間接的な課題（生息環境）	4. 河床のアーマーコート化		
	アユの採餌・産卵環境の悪化	○ アユ成長調査、流下仔アユ調査 [漁協、矢作川研究所、天然アユ調査会等] ○ 産卵場の造成 ○ 砂利投入[漁協、河川管理者等]	●明治下流の産卵場が出来ないと多様性につながらない（海へ下る有効仔魚）。卵産場造成の形態は砂河川、どこに作るべきかの検討が必要。
	土砂供給のあり方、対策の検討	（○ 流域土砂管理検討の中で検討中）	① 勉強会等により、土砂管理について情報共有する。（⇒第7回、第8回勉強会で実施） **② 継続的な情報共有・意見交換を行なう。** ●石の陸上輸送供給 ●必要な粒径の土砂等を！
	5. 瀬淵・ワンドの消失（河床の平坦化）		
	川中の微地形の多様性		① 瀬淵の状況について情報共有する。（⇒2・3回WG） **② 瀬淵の状況をモニタリングし、対応策を検討する。** ●河道内に瀬・淵・ワンド等の変化を付けること。矢作川の川らしさを基本に。 →　多様な魚類等の生息につながる。 ●応用生態工学や、近自然工法による創造。 ●現在ワンドがある所（高橋下流右岸）、過去にワンドがあったところ（お釣り土橋下流右岸など）について樹木の伐採、小規模な掘削などによってワンドの形成・維持を試みる。 ●河川公園（自然公園）を作ることでワンド、池状の地形をキープする。【イラスト有り】 ・洪水に水と漁が入る。 ・ワンドのような。 ●小規模な掘削と樹木の伐採によってワンドの形成と維持を試みる。（お釣土場下流右岸） ●小規模な掘削と樹木の伐採によるワンドの拡大と維持。（高橋下流右岸）
	試験施工後の順応的管理 （白浜工区・野見工区）	○ 河床掘削後の浅瀬形成、ワンド造成、砂州の再生[ワーキンググループ]	① これまでの取組み状況（工事概要、地元住民との連携状況）を確認する（⇒1回WG） **② 継続的な情報共有・意見交換を行なう。** **③ モニタリング（効果の確認）を実施する。**

• その他枠外

■ 陸域の外来種対策

●外来種対策
アレチウリの生息状況と駆除（外来種を確認されたら報告をしていただきたい。）
●結実前の草刈と処分。
●地球温度の上昇で環境が変わっているが昔と比べて良いのか？

■ 人の利用

●川と人の関わり。人の利用をどのように変えるのだろうか。変えられるのか。水、洪水、利用（川の内、外）
●6. 近づきやすい、親しみやすい川をめざす視点で、その適否をモデル区間で判定・評価を進める。

第 4 回 家下川リバーキーパーズの活動報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 24 年 11 月 18 日（日）
9:30 ～ 14:30

○開催場所：

【講義場所】

豊田市・生涯学習センター上郷交流館

【現地作業場所】

西大排水路、中大排水路

○参加者：63 名

(2)内容

1．開会式・あいさつ
2．メダカ大学１部（活動報告）
3．みんなで自己紹介
4．メダカ大学２部（作業の説明）
5．水路で作業
6．水路を見ながら食事
7．水路の魚観察会
8．閉会式

水路作業の様子

水路の魚観察会の様子

2. 主な会議内容

第 4 回家下川リバーキーパーズの活動が実施されました。活動の主な内容は以下のとおりです。

- ○ 活動前半は、これまでの活動内容と今日の活動について、講義形式で伺いました。
- ○ その後、現地作業場所に移動し、水路での作業は、皆でがんばったおかげで、１時間程度の作業で完成しました。
- ○ 作業の結果、設置した堰上流には水が溜まり、早速小魚たちが簡易魚道を上ろうという姿が見かけられました。この冬の状況（設置効果）に着目する必要があります。
- ○ 使用材料は、コンクリートブロック・板、針金、砂利、玉石など一般に手に入るものを使っており、他の場所へ簡単に応用できると考えられます。

矢作川流域圏懇談会「第 8 回川部会 WG（地先モデル 1 回）」開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 24 年 12 月 14 日(木)
9:30 ～ 16:30

○開催場所：

【集合場所・現地場所】
岡崎市役所・東岡崎駅
家下川合流点～矢作古川分派点

【現地調査箇所】
・美矢井橋下流
・藤井床固両岸
・乙川
・日名橋下流
・家下川合流点

○参加者：21 名（事務局含む）

(2)内容

【プログラム】

1．本日の進め方について
2．午前の現地調査
・美矢井橋下流の現状と課題
・矢作古川分派施設
3．午後の現地調査
・乙川周辺における活動の現状と課題
・日名橋周辺における活動の現状と課題
・家下川合流点の段差解消
4．解散

現地調査風景（1）

現地調査風景（2）

2. 主な内容

第 8 回川部会WG（地先モデル 1 回）では、1 日バスツアーにて、矢作川本川（家下川合流点～矢作古川分派点）と乙川の現地調査を行い、活動団体や管理者が抱える課題や活動内容について、情報共有した。WGで話し合われた主な内容は、以下のとおりである。

- 各現地調査箇所では、活動内容や課題について意見交換がなされ、情報共有が進んだ。
- 川中の利用については、市、県、国など管轄が異なることを認識する機会となり、懇談会の場で現状把握から進める必要があることが認識された。
- 分合流地点では、良い環境を残しながら、所定の流量を流す機能を確保しなければならないという難しい問題があることが改めて認識された。
- 人材がどこにいるかのプラットフォームを作るなど、川の様々な問題に直面した際の解決手段を検討する必要があることが認識された。
- マンパワーでどれだけ実際に対応できるか、また、どうやって潜在的なマンパワーを掘り起こすかを考えていく必要があることが認識された。